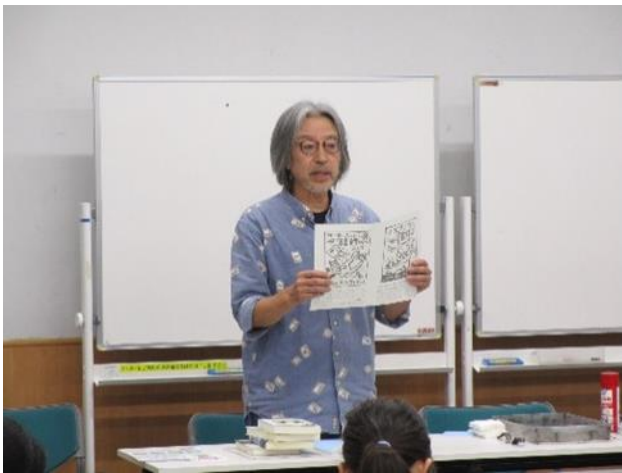


図書館講演会 開催報告 令和6年10月27日(日)

「ねこの版画 実演会」

木版画家の大野隆司先生をお招きし、「ねこの版画 実演会」というテーマで版画の実演を行っていただきました。また、参加した小学生全員で版画刷りの体験も行いました。

先生は猫好きで、猫の絵をたくさん描いており、実際に猫も飼っています。散歩中にけがをした猫を見つけて飼い始めたことから、次々と家で猫を飼うようになり、最も多い時で7匹の猫と暮らしていたそうです。猫の名前の由来なども聞くことができました。



猫のお話のあとは、先生が描かれた「塗り絵」の紙について説明がありました。「図書館に来て、必ずしも本を読まなくてもいいです。もう少し大きくなって中学生くらいになったとき、行く場所がなくて、学校にも行きたくないとなったら、図

書館に来て、並んでいる本を見るだけでもいいです。図書館という場所がとてもいい場所だと思います。それから、図書館で本を読むだけでなく、くつろいでもいいのです。」とお話されました。

さらに、「図書館で本を読むことはできませんが、読みたい本をすべて図書館で読もうとしないほうがいいです。なぜなら、本は持っているだけで気持ちがいいものです。例えば、この『雪月花』（北村薫 著）という本のカバーは、版画で作っています。この大きさに作った版画ではなく、別



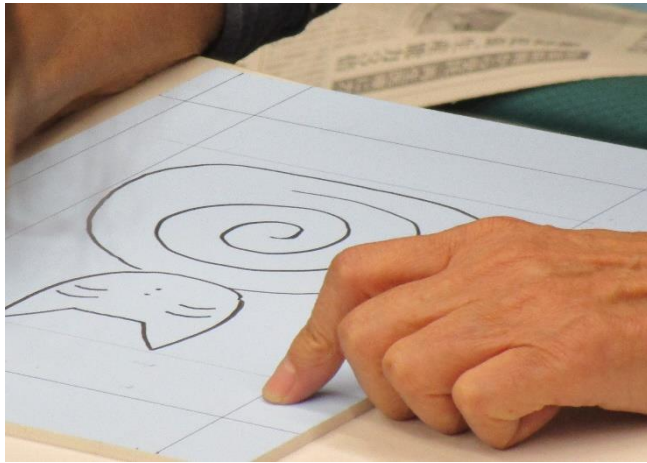
の大きさに作った版画 4 枚を組み合わせています。このカバーは版画の感じがするザラザラした紙で作りました。ですから、読みたい本を図書館で全部読むのではなく、本当に読みたい手に置いておきたい本は、ぜひ本屋さんで買って手元に置いてください。そうすると、もっと本が身近になりますし、そうしないと、出版社や本屋さんが成り立たなくなって、いい本がだんだん出版されなくなります。」とおっしゃっていました。



そして、彫刻刀についての説明後、実演がありました。

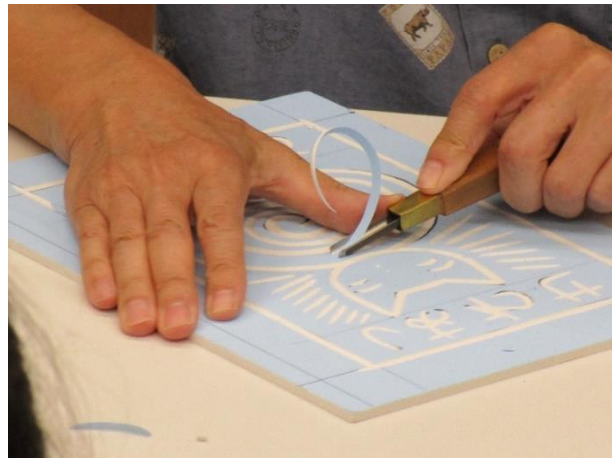
いろんな形の彫刻刀があり、先がとがっている「切り出し」や、先が平らになっている「平刀」も

ありました。先が丸く見えるものは「丸刀」といい、丸刀には細いものと太いものの 2 種類があり、先が三角形のように見えるものは「三角刀」とのことでした。実際に、合成樹脂で作られた板を彫刻刀で彫りながら、細い丸刀と太い丸刀では彫った線の太さが変わることや、彫り方によって種類を変えて使うことを教わりました。

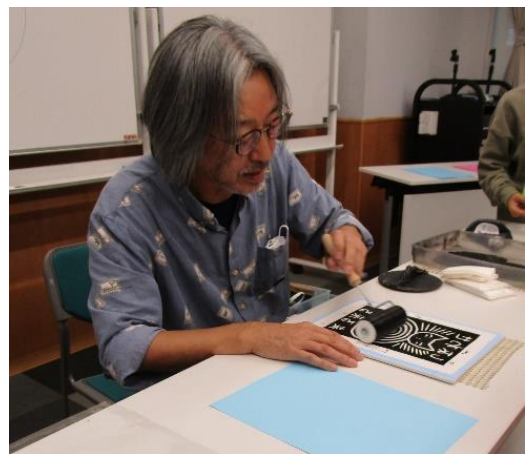


その次に板に絵を描いていきました。版画は逆に写すことになるので、描くときは文字も絵も鏡に映したように反対に描きます。

下絵が描けたら、丸刀で彫っていきます。必ず、反対の手を添えます。そうしないと、滑ったときにけがをすることがあります。絵が彫れたら、インクをつけたローラーで塗り、紙をのせたあとに、バレンで刷ります。先生が使っているのはプロ用のバレンです。小さなベ



アリングが入っているため、ぐるぐる回るそうです。ビニールを敷き、よく滑るようバレンに潤滑剤スプレーをかけて刷ります。



その後、1人ずつ、水色・緑・ピンクの3種類の紙から1枚を選んで、先生と一緒に刷る体験をしました。バレンをぐるぐる回しながら、みんな「よく滑る!」「楽しい!」と感想を言っていました。一緒に刷った保護者は、「昔のバレンと全然違う!」と驚いていました。刷ったあとは、まだ乾いていないので、新聞紙で余分なインクを取っていきます。さらにコピー用紙でよくインクを取った後に、ドライヤーで少し乾かします。ここまで、みんなで行いました。



できあがった作品は、額に入れて完成です。

先生は、「インクがかすれていてもそれは失敗ではありません。それも版画の味わいです。」

家に帰ったら、額のうしろにマジックで今日の日にと自分の名前を書いてください。」と伝えていました。

最後に、はじめに見せてもらった『雪月花』という本の表紙の版画の原画 4 枚を、じゃんけん
で勝った 4 人の子どもに大野先生がプレゼント
してくれました。



参加した小学生は、紙版画は体験したことがあっても、版画体験は初めての子が多かったので、みんな真剣に先生のお話を聞き、熱心に実演を見ていました。実演会終了後は、子どもも大人も先生にたくさん質問していました。

先生は、木版画家として個展開催や本の挿画をされるほか、都内や都外で小学生に版画を教えるボランティアをされているそうです。今回は、参加した小学 1 年生から 5 年生までの子どもだけでなく、保護者の方も版画について学び、版画刷り体験をしながら、大変楽しい時間を過ごすことができました。